

## 後期の授業形態及び大学の開放について

【ご意見・ご要望】（投稿日：2020年8月18日）

お忙しい所失礼いたします。この度は、後期における全学共通科目の授業形態及び大学の開放について意見を申し上げたく存じます。

さて、新型ウィルスの感染拡大に対する京都大学の対応に基き、我々一回生は一度もキャンパスに立ち入ることなく夏休みを迎えました。一方で、令和2年7月27日付の文部科学省による事務連絡では、

「本年度後期や次年度の各授業科目の実施方法を検討するに当たっては、大学設置基準第25条第1項が、主に教室等において対面で授業を行うことを想定していることに鑑み、地域の感染状況や、教室の規模、受講者数、教育効果等を総合考慮し、今年度の授業の実施状況や学生の状況・希望等も踏まえつつ、感染対策を講じた上での面接授業の実施が適切と判断されるものについては面接授業の実施を検討していただき、授業の全部又は一部について面接授業の実施が困難と判断される際には、「2 遠隔授業等の実施に係る留意点」を踏まえた上で、遠隔授業等（面接授業との併用を含む。）の実施を検討いただくようお願いいたします。」

とされており、感染防止策を十分講じた上で、可能な限り対面授業を行うことを前提とするものであります。また、東京大学においては、学生及び教職員の方に対し、健康管理報告サイトを通じて体温・体調を報告の上で、問題なければ学内での活動を許可する方針（2020年7月27日）が提示されています。大阪大学においても、課外活動を限定的に許可する等の対応がとられています。

本学におきましても、山極壽一総長が、

「映像情報や文字情報からでは伝わってこないものが、生の情報にはあるんです。学生にとっても、講義だけではなく、仲間と語り合いながら共通の体験をするサークルなどの課外活動が、どれほど重要かわかったと思います。

オンライン飲み会などもありますが、それでも足りないものがある。オンラインだけでは人間に必要な感性を貶（おとし）める可能性があります。だから、大学は安全を確保しつつ、少しずつキャンパスを開放していかなければいけません。学生にはこうした限界があることを理解して、学んでほしいです。」（AERA dot. より）

という談話を発表いたしました。これは京都大学がウィズ・コロナ時代の中で、総体としての大学を取り戻そうとする、前向きな声明であるように思われました。ですが、現在京都大学の一回生は、授業、授業外の教育そして課外活動その他を含めた総体としての大学としての宣伝を受け入学し、それに相応する学費を払いながら、その恩恵に殆ど與ることのないままです。一部学部については、後期もこれまでとほぼ変わらぬ状況が続くことを示唆する発表がなされており、極めて遺憾です。

しかしながら、たいへん大勢の学生が一度に集まると、当然感染のリスクは高まります。そのような中で、可能な限り学生にとり健全な学生生活を実現させるために、学年

ごとに対応を変化させる、ということを提案いたします。具体的には、文学部専門科目集中講義で予定されていたような、講義の様子をもう一方の講義室に中継(あるいはオンラインにて配信)するような方式を全学共通科目に導入し、一回生に優先的に対面授業を実施する、3密を避けるために屋外で授業を行うといったことが挙げられます。感染防止策につきましては、完全な対面授業を実施している、大手予備校や自動車学校の例に見習うべき所があると思います。大学院入試の対応でお忙しい所であると存じ上げておりますが、何卒ご配慮の程宜しくお願いいたします。

【回答】(回答日：2020年9月1日)

(回答者：国際高等教育院、教育推進・学生支援部教務企画課)

ご意見頂戴しありがとうございます。

後期の授業形態については、対面での授業希望、オンラインでの授業希望と様々なご意見を頂戴しております。

全学共通科目の授業実施方針については、現時点の感染状況等を見ながら慎重に検討を進めております。方針が決まり次第学生の皆様にお知らせさせていただきます。